

第 10 回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会 議事要旨

1 日 時 平成 28 年 2 月 15 日(月)14 時 00 分

2 場 所 職員会館 304 号室

3 出席者

- (1) 委員 4 名
- (2) オブザーバー(基本構想策定委託者)3 名
- (3) 事務局 市民生活部長ほか 4 名

4 次 第

(1) 開会

(委員長)

第 3 章の内容は、主に検討委員会の中で既にできている類似施設の先駆的な事例について取りまとめたものになっている。

(2) 第 9 回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会の議事要旨

(委員長)

前回は第 2 章と第 4 章の確認を行った。第 2 章に関しては、この検討委員会の検討経緯などを整理し、取りまとめている。また、第 4 章に関しては、来年度以降の基本計画についての内容であり、ワーキンググループを設置して定期的に部会を開催する方針を確認した。

前回、議論の中で出てきたものをいくつか取り上げると、パブリックコメントの段取りについて御質問や御意見があった。それに関しては、市役所や各コミュニティセンターなどの施設に基本構想書を設置して市民の方々に御覧いただくことになる。また、市ホームページでも本書を公開する方針で、本日の検討委員会の後にパブリックコメントを実施する流れになっている。

また、第 4 章に関連する基本計画の進め方については、より議論が具体的になっていくため、文化系施設の利用団体あるいは小中学校などに対して、現在の課題やニーズを収集していく必要があるという御意見いただいた。基本計画の中でも、平成 28 年度の早い段階でそういった関連団体に向けてアンケートを実施したい旨を御説明したかと思う。

その他にこれから検討が必要なことは、各部会の人選についてである。例えば、トップダウンで決めるワーキンググループの代表者というよりは、様々な意見をコーディネートして議論を取りまとめていただける方を市で検討・人選いただくという方針を確認した。

また基本計画の密な取組が重要ということで、設計段階で検討委員会が終わり、設計事務所に業務が移って何も関係を持たないということではなく、検討委員会が基本設計や実施設計においても建物づくりに絡んでいくべきだという御意見もいただいた。

改めて議事要旨は御確認いただきたいと思うが、今述べたような内容が要旨になっているかと思う。もし議事要旨に関して、御意見や御質問があれば伺いたい。

(3) 基本構想案(第3章)に関する議論

－基本構想第3章原案の内容説明－

(委員長)

振り返ると第3章は第1章で掲げたメインテーマや基本理念につながる根拠がまとめられていることと、それらが思い付きではなく、しっかりと調査をしてデータを分析した中で、様々なケースから学んだことを盛り込んだものだと改めて実感した。それでは、第3章の内容に関して御意見などがあれば伺いたい。

(委員)

以前にも意見として出ていたと思うが、やはり実施したアンケートについては、回答者の年齢層の問題は大きい。

(委員長)

御指摘のとおりだと思う。今回のアンケートだと第3章の冒頭で60代以上の回答者が全体の約半数を占めているという記載があった。私の記憶では、本文中にも何回か「アンケートの結果の偏りは高齢者の回答によるところがある。」といったことに触れている箇所があったと思う。そういった意味で、今回のアンケート調査が市民会館だけを対象としたアンケートだったということと、御指摘のあった回答者の年齢層が偏っていることを踏まえると、基本計画の段階でもう一度、利用団体や小中学校などに対するアンケートあるいはヒアリングなどの調査が必要になってくると思っている。

(委員)

パブリックコメントの場合、読み始めである冒頭での表現というのが重要になってくる。

(委員長)

理解のしやすさなど表現を工夫するように検討が必要だと思う。その他にいか

がだろうか。

(委員)

改めてアンケート結果の分析も含めて、他の複合対象施設の利用頻度、利用時間、利用者数を改めて見直すと少しネガティブになってしまうところがある。現状の建物を新しくした時に、人口の推移も考慮すると、新しい施設にどれだけのお金をかけるべきなのか、どのように施設を作り上げていくべきなのか、基本計画の段階で難しい話が出てくることを実感している。

パブリックコメントに関しては、基本構想なので参考程度の意見が出てくればよいと思っている。また、第3章のアンケートについては、今後どうだったら利用したいのか、足を運ぶのか、どういう人が来るような施設にしたいのかが重要になってくる。我々が舞台や芸術に関係のない人間だったら、おそらくホールには行かないと思う。そういう人たちに目を向けさせるには、どのようにしたらいいのかは、こういったアンケートなどから見えてくる。

また、第3章に今までの検討委員会の中で出てきた先行事例が3施設紹介されていた。どこの施設についても良い事例だと思うが、そのまま苫小牧市に合致しない部分もあるので単純な比較はできない。

少し否定的な意見ばかり言ってしまったが、そのあたりも含めて基本計画の段階で準備していく必要がある。

(委員長)

新しく作られる施設がより利用されるようにすることは当たり前の目標ではあるが、それを実現するのは非常に難しいところがあると思う。この第3章で改めて整理したところでは、稼働率がキーとなる。現状の市民会館の大ホールでは年間25%前後の稼働率、小ホールでは年間35%前後の稼働率、文化会館のホールで年間40%前後の稼働率ということで、複合化することによってホールや各諸室の稼働率を引き上げていくことが最大のメリットだと考えている。

一方で、私自身としては、稼働率至上主義というのは非常に問題があると思っている。今回の基本構想のコンセプトの中で、日常的な滞在というのが挙げられている。稼働率が飛躍的に上がらなくても、日常的に来館し、滞在できる人がどれだけいるのかが大事だ。今回のアンケートでは既存施設のそういった面のデータは取れていないが、あまり稼働率至上主義にならないよう、いかに共用部分のスペースや広場に、常に人がいる状態を作っていけるのかを考えるべきだろう。それがおそらく安定的に作られていけば、稼働率の向上にもつながる。そういった部分であまり稼働率に捉われないよう注意する必要があると思っている。

ただ、複合化の1番のメリットは、コンパクト化によるコスト削減という点であることは確かである。現状の市民会館大ホールの稼働率25%がどれだけ改善で

きるのか、例えば札幌圏との役割分担も踏まえたホールの規模の設定などを考えなければならない。

もう1つケーススタディから学んだのはソフトの作り方や運用の仕方、イベントの仕組み、リピーター獲得への努力なども重要であると認識している。

(委員)

私も様々な人たちが複合施設を利用できるようになるという考え方が前提で、稼働率を上げるためにはケーススタディで出てきたNPOのような団体がどういう催しをやっていくのかが重要である。また、市民会館の利用者数の推移を見てわかるように平成26年度は興業が多い年であった。興業が多くななくても、どのように市民の方々に利用してもらえるか、どのように自主事業で一般の方に利用してもらえるかといった取組をしているところである。

利用率が上がらなくてもよいと言いたいが、やはり市としてはランニングコストがかかってくるので、集客ができずにコストだけがかかるのは難しい面もある。

(委員長)

余談となってしまうが、飛行機にファーストクラス、ビジネスクラス、エコノミークラスと何段階か座席のグレードがあると思うが、時々、エコノミークラスのチケットを買っていた乗客がビジネスクラスにアップグレードするときがある。それには航空会社の戦略があって、1回アップグレードするとその良さに気付くので、何とかまたビジネスクラスに乗りたいと思うような動機付けを仕掛けている。それと同じようなこともこういった公共施設においても重要だと思っており、ホールの利用経験のない人がホールをどう利用するかイメージがつかないところがある。全くのアイディアだが、最初から正規の料金で申し込まないと利用できないというのではなく、トライアルというかたちで非常に安い料金で利用してもらってホールの良さに気付いてもらい、最初のハードルを下げていくといった取組も面白いと思う。使ったことがない施設を使うというイメージはなかなか持ちにくいので工夫が求められる。

(委員)

料金設定にしても興業でやる料金と小中学生が余暇で使う料金が全く同じということにはならない。市民にうまく還元できる方法と興業で集客できる部分ときっちり分ける必要がある。

(委員)

インターネットで最初の1か月間はお試しの期間というような映画のチャンネルを観ることと同じことだと思う。昔、「いつかはクラウン」という言葉があっ

たが、「いつかは市民ホール」として学校の体育館だけではなく、少し手を伸ばせば市民ホールを使えるような仕組みを作っていけば、自ずと市民の方々も市民ホールで発表をやりたいといった方向に向かっていくと思う。料金体系を考えることは、民間企業では当然のようにやっていることなので、お試し期間というのは非常に良いと思う。

賑わいの話が出ていたが、例えば大型のショッピングモールで、あれだけ顧客がいても、そのままその人たちがいることが売上に直結しているかというところではないと思う。ただ、賑わいがあるので何かイベントがあった時には売上が上がった可能性はある。常にそういった賑わいを持たせることは、ホールなどの稼働率には出てこないかもしれないが重要になってくる。

(委員)

今後、複合化によるコストダウンを見込めるわけだが、苫小牧市の場合、興行主としての観点からホールを見た時に、現在の市民会館の大ホールの1,630席は採算面などからいっても良いと思う。また、話は変わってしまうが、U65ということで62,63歳あたりの年代の方々が急増している。それに伴い、余暇の過ごし方が複雑になっており、今後出てくるU65はパソコンやインターネットができ、今までよりもさらにコミュニティは作りやすくなっている。したがって、会議だけではなく、一般の方でも気軽に使えるようなダンスや発表会ができるスペースも必要になってくる。さらに現在の若年層というのは、ダンスが中学生の必修科目になっている。そうしたことから、複合施設には市民が気軽に発表できるようなスペースがあればもっと元気な町になると思うし、工夫すればもっと多くの人々が複合施設に出入りするような施設になる。これからは皆で何かをやることがキーワードになり、そうした中から多くのコミュニティが生まれてくると思うので、そういった想定もうまくこの複合施設に取り込むことができれば、1年間で多くの集客を見込め、後ろ指をさされるようなこともないと思う。

(委員長)

基本計画の中でワーキンググループを設置してより深い議論をしていただきたいと思っている。そのワーキンググループで取り組んでいただきたいことは、既存施設や他都市の前例に捉われず、座席数や採算性など根拠を持った議論をしていただきたいということである。今の建築技術でいうと物理的には50年さらには100年持つような施設ができてくるので、御指摘があったような現状の課題と利用者層に関しては、数十年後のことを考えてどれだけ想像力が持てるかというのは大事になってくる。

(委員)

興行として考えると 1,630 席あった方が良い公演もある。今、同じような建物を作るとしたら、莫大なコストがかかるし、現在は現市民会館のホールのような作り方はしない。これから様々なことを調査していく必要がある。

(委員長)

建物の詳細の話になってくるが、最大瞬間風速値に合わせるのかという議論があると思う。いわゆる仮設的・可動的に最大値を持っていくのか、常に最大値に持っていくのか、新しい設計手法も出てきているので、年間でどれだけのイベントがあって、どの程度の人が見込めるかしっかりおさえた議論が必要である。

(委員)

貸す方もただ単にホールを貸すのではなくて、ホールのバルコニー部分を別料金として貸し出しているホールが多くある。それと現在、市民の方々の利用が多いのは文化会館である。文化会館の 500 席がイベントをやっているが少し足りないという催しがあり、そのあたりも踏まえて苫小牧市に合わせた考え方をしていかなければいけない。

(委員長)

この件についての議論は尽きないと思う。これらは基本計画の 2 年間でしっかりと詰めていきたい。

(委員)

第 3 章の先行事例のケーススタディについては、基本情報の中に各都市の人口を記載していただきたいと思う。大学の数、主産業などの違いによって同じような都市でも年齢層の違いが出てくるので、できればそのあたりが予備知識としてあれば総事業費の参考になる。

(委員長)

一通り御意見をいただいた。第 3 章については、ほとんどが振返りとなったがホールの具体的な仕様については紛糾することになると思う。場合によっては取捨選択していくことになるが、何よりも重視したいのは根拠のない性能設定ではなく、しっかりとした根拠を持った基本計画づくりに取り組んでいきたいということである。

(4) 閉会